

# これからの時代、 世界的に重要となる 自然崇拝と祖先崇拝について②

—— 縄文時代は何故、今人々の心を捉えるのか ——

農食健研究所

(株)医工学研究所

(株)人間と科学の研究所 所長

飛岡 健

(はじめに)

久しぶりに長野茅野

頼岳寺、宇宙庵を訪ねて

本稿で今世界の人々も日本人も関心を高めている縄文時代の姿を詳しく考察し、本当にそこに何があり、我々が何が学べるかを探ってみたい。その前にちょっと関連のある私の若かりし頃の話に触れさせていただく。

今から約60年前位に、私は信州長野県の茅野にある頼岳寺の宇宙庵という庵において、大学生の頃、1ヵ月間の座禅を行った。何故なら、高校生から参加していた政治運動の中で、様々な葛藤、軋轢が自分の内面を揺らしていたからであった。自分の中に安寧の境地、あるいは無我の静かなる心境を、ひよっとしたら確立出来るかも知れないと思ひ立ち、それをもたらしたくれ

るかも知れないと思ひ、座禅を試みた訳である。結果は無惨だった。何故なら、煩惱を鎮める事に失敗し、むしろ煩惱の固まりになって、東京に帰り、おまけに酷い風邪をその後ひいて、1ヵ月近く体調を壊した経験があった。

1ヵ月間毎日規則正しく、座禅を宇宙庵にて行った事は、その後の人生において、物事をじっくりと時間をかけてやろうとする時、様々なその時の経験が役立つように思う。また座禅本来の目的を、即ち安寧の境地を手にする事は出来なかったが、独り静かに無機の静謐とも言える静けさの中で座禅を組んだことよって、様々な事を基本から考え、その後の人生において何を



頼岳寺



宇宙庵

するべきかのキツカケを頂いたように思う。

それは、私は航空工学、宇宙工学を専攻し学んだが、そこで抱いた疑念は、いたずらに目標の描けないまま今日の科学技術文明の更なる展開を進めて行った時、果たして科学技術は人類に

何をもちたらずかを、真剣に考え抜いた事であった。しかしその時には、疑問が大きくなっただけで答えは出なかった。その結果が出なかった事が、大学院卒業後の私の人生の方向を決定する動機となったのであった。静かな心の世界を求めて座禅を行ったが、結果は、

今日から明日にかけての科学技術文明の展開への疑問のマグマの如き沸湯であり、何とかしないと地球上での人類社会の将来が危うくなるだろうとの確信が生まれたのであった。そしてそれは今日当たり前と思われている諸々を、懐疑的に捉え考え直す事をするように私をさせた。70年安保への参加への助走でもあった。果たしてこのままの科学技術文明の展開の継続が人類を幸せに導くのか、一端立ち止まって、今いちどその点について人類全体として真剣に論じあう事の重要さを訴える運動が私の中の70年安保であった。それに対し、60年安保は漠とした問題意識からの取り組みであった。残念ながらどちらの運動も運動としては挫折してしまっただが、私個人としては、その後の人生の展開が、そこから始まったのであった。そして今日の2024年の時点でのシンギュラリティ論争

や、世界的レベルのAIの人類にもたらす負の作用の議論は、私が今から半世紀前に人生を懸けて考えるべき問題であるとした事の噴出である。まさに茅野の宇宙庵での1ヵ月の思索の時間の延長にあるのが今日の状況なのである。

さて、その話しが本論の主題ではない。本論の主題は、今日世界が混乱の世界の行く末に怖れを感じ「新しい人類の存続の在り方」をまだ少ないがかなりの人々が本質的に模索し始めているその事である。その時に歴史の中で、光明を見つるべくひとつの参考になる時代と地域があるのか、どうかの再検討が開始された。その可能性の1つが、日本各地で1万年以上もの間大きな戦いも無く繰り返された縄文時代の生活であり、その1つの中心が茅野を含む八ヶ岳山麓の甲信越地域である。多くの世界中の人々が、今日縄文時代への関心を払い始めている。今やちよつとした世界的縄文ブームとも言える程である。何故であろうか？それを詳しく考察しておく必要があるようだ。実はこの縄文時代の1つの中心地であるのが、私が学生の頃に座禅を行っ

た茅野市周辺であり、隣の諏訪市であり、今私の住んでいる山梨県の北杜市といった優れた異端者の輩出する地であり、山に囲まれた多くの水のためり場としての大きな湖沼河川のある地であった。そして良く観察すると、日本には、実に多くの縄文博物館が各地に出来ている。

私は2022年の秋に山梨県北杜市に移ったのであるが、何とも栗の木やドングリやクルミの木が多いのに驚いたのが第一印象であった。そして直観的に縄文人達が棲み易い地域であったのであろうと印象を抱いた。そして調べていくと、北杜市には縄文遺跡が至る所にあると共に、その記念館や博物館がそこに出来ていたし、縄文研究会や学会が沢山ある地域であった。この地域は私の人生と何か深い縁があるのであろう。個人的想いはこの位にして本題に入りたい。

### (1) 縄文時代を語るについて

私はここで縄文時代について、私見でかなり自由に描いたが、この日本人と日本社会の源流を追う事は、既に莫大な努力が多くの分野の専門家によって費やされており、今日かなり確立し

た定説はある。これからの更なる研究によって、更に旧石器↓新石器↓縄文↓弥生↓古墳時代といった時代区分は、より精緻化されると共に、その内容も更に調査が進むにつれて変化する可能性がある。古代史の研究の専門家は未だ縄文↓弥生の事について研究を続けており、今日の発達した遺伝子工学やAIの使用により、より新しい説の登場も十分あり得るかも知れないのが今日の状況である。比較的最近まで縄文と弥生時代は、石器時代と一緒に呼称されていたし、日本人という人種に関しても、アイヌ説や原日本人説や混合説等いろいろと議論され、発表されてきた。そして今日においても、未だその議論は残っている。

しかし今までの古代研究の流れをフォローした論文や著作を見る限り、人種としての日本人を研究する人類学 (Anthropologist) と文化を主体として研究する考古学者 (Archaeologist) との協力により、あるいは最近では遺伝学者 (Geneticist) の参加により、今日の定説は、縄文の黄金期以前までに日本列島に住みついて、混血した縄文原人が元々いて、そこに渡

来人としての弥生人が加わり、それから更に混血して、日本人という今日の人種が形成されていると考えられている。そして縄文式土器をベースとしつつも、弥生式土器は独自のスタイルを形成したと考えるのが定説のようだ。しかし縄文土器と弥生土器を一見すると全く違うように見えるのが我々素人であろう。

こうした人種 (Race) と民族 (Folk) との違いや、その起源についての議論は実に多くの分野の多くの専門家を巻き込んで、その時代の支配者と支配的思考に影響されるということが繰り返されてきた。それに関しては、私は門外漢なので詳しい内容には触れないこととしよう。実際に縄文遺跡を各地で自分の目で見て縄文時代の生活を本論の元となった、「縄文時代が世界の新しい生存にとってヒントになるところ」を借用し、持論を展開したのが本論である。まずそのことを最初に断っておく。本論は縄文時代を深く論じる研究論文ではなく、今日から明日にかけての時代に危機感を感じる多くの世界の人々が、何故縄文時代に関心を示しているのかを考察する事が大きな目的である。

その概要は、図1に示した。外枠には、今日世界が置かれている状況であり、縄文時代への目が向く外的要因であり、内側は、縄文時代のどこを注目するかの内容である。

縄文時代に未来へのヒントがあるかどうかを論じる前に、今日の地球社会に問題が生じている。そして生ぜしめている主因と考えられる西洋科学技術文明とキリスト教文化について少し見とおそう。

## (2) 今日を支配している

### 西洋科学技術文明と

#### キリスト教の限界

今日の地球文明の限界という言葉の中味を吟味すると、やはりその中心をなしているのは西洋科学技術文明とキリスト教文化の存在と影響であろう。21世紀の今日、その圧倒的拡がりや支配とがもたらした功罪がはつきりと目に見えてきた。そしてその罪は限界に近くまでなっており、このままバベルの塔を建て続けると、臨界を迎え、地球文明は崩壊するかもしれないとの危機感が溢れ始めた。

西洋科学技術文明は、その源流はギ

リシャ文明以前にあるとしても (明確な歴史として述べているのはギリシャ時代から)、それをはつきりとした姿で世界の人々に目に見える形で登場したのは、ギリシャ時代である。その後、キリスト教の支配が貫徹する中世の暗黒時代を経て、それら2つが急速に展開し、今日のような形まで大きくなったのは、第2次産業革命 (動力革命) からである。そこでは学問の世界でも著しい動きが見られ、多くの攻勢に影響を残す著作が生まれた。哲学者のデカルトの因果関係を明確にした『機械論』、アダム・スミスの『分業論』、マルクスの『資本論』、ロックやルソーの『契約論』等々であろう。そしてそれらがヨーロッパで生じたのは、厳しいヨーロッパの自然の中でであり、いち早く科学技術文明が進んだのは、激しい小国間の小競り合いと戦いであり、それを繰り返してきたヨーロッパの地と歴史であった。人間は残念ながら、平和時に物事を創造開発するよりも、厳しい戦いの中に、サーチュイン遺伝子が活発に脳を動かし、新しいアイデアを創出させ、それを具現化して、武器を始めとして様々な新しい道具や品々とする事が多かった。

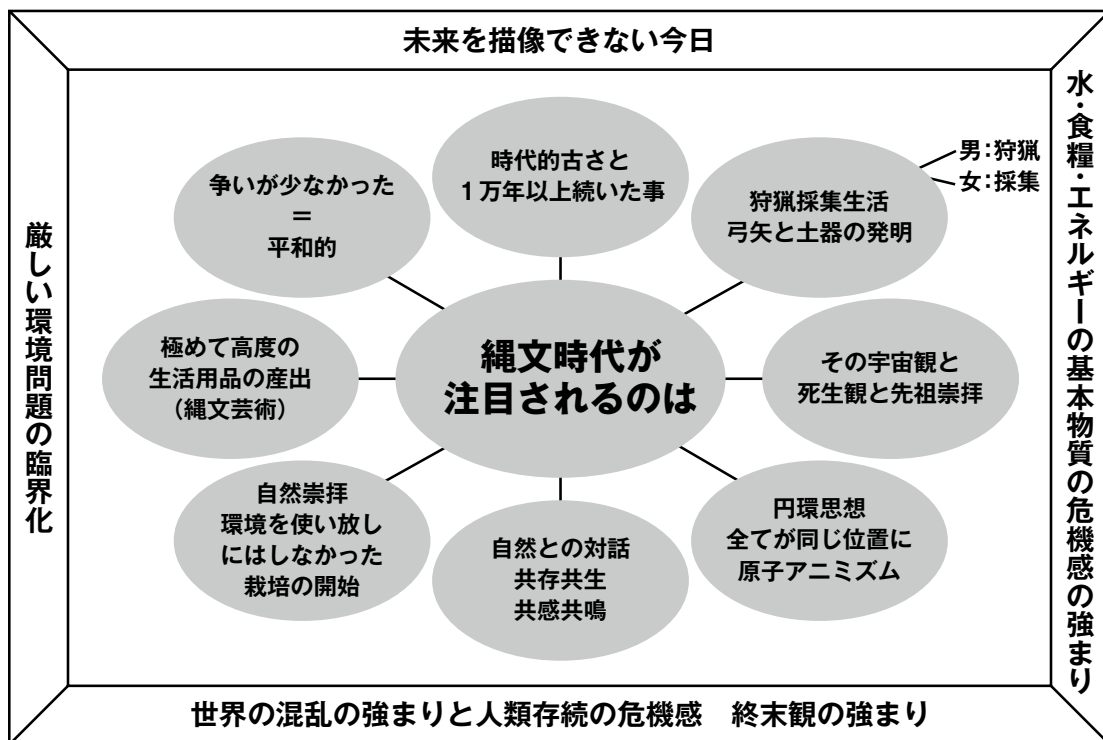


図1 縄文時代が注目されるのは

それが歴史的事実であった。その先頭を切っていたのが、ヨーロッパであり、そこでは他の世界に先駆けて科学技術が先に発展した。

何よりも工学の扱うものは、「走る」「投げる」「打つ」「飛ぶ」「泳ぐ」といった「動詞の外延的延長」であり、それはある個別の機能を強化する物であり、全体システムの網目から抜け落ちるモノが常にあった。このシステムの細目から抜け落ちるものの、蓄積こそが今日の問題の大きな原因なのである。そしてそれがここ200、300年間で急速に拡大し、人間疎外を拡大した。即ち明確に意味のあるモノを1人の人間が作り出すのが本来の人間の人格と尊厳のベースであるが、そうでなく、部分(品)の集合として1つの機械が造られ、ここでは1人の人間の主体と人格は、部分化され、無機化にされ、人間の主体性や意識を重んじず、人間疎外が発生するようになった。そして文明化が進めば進むほど、ひとりひとりの人間の疎外度は高くなっていき、完全に機械の部品化にされ、コンクリート砂漠、アスファルトジャングルの中で、プロイラー飼育化されてしまうようになっていったのである。そして今日では、この地球上の多くの人々が物質の効用に引っぱられ、そうした事すら気付かないで人生を送ってしまった。その結果、ヨーロッパで先行的に発展した物質文明の強度の展開は、自然の再生能力や浄化能力を超え、生態系を破壊し、環境問題、特に異常気象を通してその負の効用を大きくし、自らの開墾した田畑までを劣悪な状態に押しやり、人体に大きな害悪を与えるまでになっている。そうした事に対する疑問が世界的に噴出しているのが今日の状況であるが、未だにその問題の流れを変える気配は地球上の住人の大多数になく、一部の人々のみが不安を募らせ、何とかせねばと動き始めている。そうした人々の未来への必死の思いが縄文時代へ熱い視線が背景である。

さて、もう一方のキリスト教であるが、約12億の信徒を持つ世界最大の宗教であるが、一神教の神の言葉に全て従って、人類の生存を規定する事に対する反発は、今日相当に強まっているし、その誕生の背景、分裂の背景からも、そして一神教によるワンワールドの建設に対してもキリスト教への様々な批判の声が出始めている。

その教義の内容には、神の下に人間を置き、人間を他の生命体の上に置き、人間より知能の劣る(?)全ての存在への人間の支配を認めている。明らかにそこには「神道」の「八百の神」や「悉皆仏」の如く諸々の存在の平等性と調和の捉え方はなく、縦の線の中で人間及び、他の生命体の捉え方であり、自然崇拜の考え方に乏しく、死者に対しての扱い方も、個々人の墓を造るものの、死後の扱いはその人や家の権威を示す事が主であり、社会全体の文化としての祖先崇拜の考え方は弱いのである。

こうした祖先崇拜と自然崇拜の弱いキリスト教(ユダヤ教、イスラム教)の世界支配への強い疑念が生じているのが今日である。そうした事が東洋の叡智や知恵への関心を高め、更に日本への関心を高め、縄文時代への関心を高めているのであろう。

### (3) 何故、今縄文時代がブームになっているのか、そしてそれが応えられる内容があるのか?

ここで今日の世界の混迷の状況を更

に詳細に語るまでもなく、日々マスメディアは、その状況をかなり詳しく報道している。

しかし、明確に(2)で述べた如く、西洋科学技術文明とキリスト教文化の支配拡大の功罪とその限界に声高にいつて語る事は今の世界では少ない。何故なら、未だ世界を支配しているからである。しかし、それへの疑問を呈した人々は日本を含め、世界には多くの人々がいたのも事実である。しかし変革を生み出すにはならなかった。

しかしこのまま地球上の2つの支配的存在に、成り行きを放置してまかせてしまうと、ひよつとするとこの地球上での人類の存続にとって抜き差しならぬ事態の到来が来てしまうかも知れない。そうした不安が地球上の多くの人々の間によりがり始めている。そうした時代状況であるので、一部の人は今までの人類の営為の見直しを行い、「新しい地球上での人類の生き方」を模索し始めているのだ。その根本原因が白人支配の西洋科学技術文明とキリスト教への懐疑である。それらが様々に生ぜしめてきた今日の悪しき状況に対し戦争の無い、そして環境破壊の無い世界の登場を求め始めている。まさしくベートーベンが第9交響曲「合唱」の中で求めた物質追求の末のユートピアでなく、「美しき魂」に支配された理想郷を求め始めているのだ。

そうした時に、1万5000年間(一般的には、1万年以上との表現が用いられる事が多い)も続き、大きな争いも無く、人々が静かに安定して暮らしてきた縄文時代が世界の人々の目に留まったのであろう。しかし「長く時代が続いた事」と「争いが少なかった事」が、その注目を集め、話題の中心となつているが、実際に縄文時代が本当に我々地球上での明日の生活環境として望ましいのかどうかは、もつと詳しくその内容を吟味し、それに基づき、縄文時代が1つのお手本となるのかどうかを結論付ける事が、縄文時代が世界の手本としてのヒントを与えるかどうか否かを知る上で必要であろう。それを行うのが本稿である。

何よりも重要なポイントとは、縄文時代が世界史の1コマであり、日本列島という限られた地域での出来事なのか、それとも時間と空間を超えた普遍性をもった存在であったのかを明らかにすることである。仮にその普遍性を有しないのであれば、縄文から離れて

また別の理想郷を模索しなければならぬ。しかし私には少なくとも縄文時代には、困難に陥っている今日の地球上での人類のこれからの生存にとつて、役立つヒントは多いと感じている。しかしその感じを感じとして放つておくのではなく、しっかりと言葉として表現する事が不可欠である。特に欧米の人々に理解してもらうには、言葉あるいは1つの纏まった思考として対話に乗せられるようにすることが不可欠である。

縄文時代は約1万5000年続いたが、その期間はそれが定まるまで多くの議論がなされてきたが、今日では6つの時代区分が図2の如くなされて

長く続いた旧石器時代(海面は今より80m程度低い時があり、日本列島はまだ大陸の一部であった時期もあった)から、縄文の草創期に入るが、同時にその頃氷河期の終わりに差し掛かり、徐々に暖かくなり始めている時であった。7000年前位から中期に入るが5300年前位が温暖化のピークで、今より2~3℃平均温度が

### (4) 縄文時代の概要

縄文時代は約1万5000年続いたが、その期間はそれが定まるまで多くの議論がなされてきたが、今日では6つの時代区分が図2の如くなされて

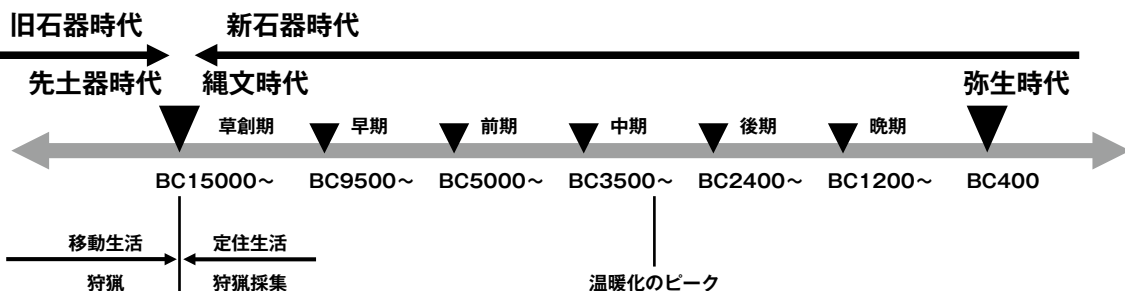


図2

高く、海も3〜5m高かった。そして「縄文海進」という海が内陸部に進行してくる状態が生じた。

これによりかなり内陸部まで海になつてしまつていた。そしてそれに伴い多くの縄文人が列島の内部に居住した事が記録されている。また海面の上昇により、海に浅瀬が出来、多くの貝類や藻類が豊富に生育する環境があつた。

縄文中期のさらに真ん中の5300年前頃をピークにして、徐々に温度が低下していき、晩期には再び寒冷期になり、動物や植物の採集物の減少により、食糧事情が悪化して人口は著しく減少し、縄文時代の終わりを迎える要因となつた。

温暖化の過程においては、ドングリ、クリ、クルミ、トチの実等が豊かに稔る落葉広葉樹の森が広がつていた。これにより、旧石器時代の狩猟、獣肉を主食とする事から、近くの狩場で弓を用いて効率的に動物を仕留めると共に、魚介や木の実等を組み合わせさせた食習慣が形成されていった。

木の実には季節性があり、収穫が出来ない季節があり、その保存が必要であり、その為に土器が開発された。出土

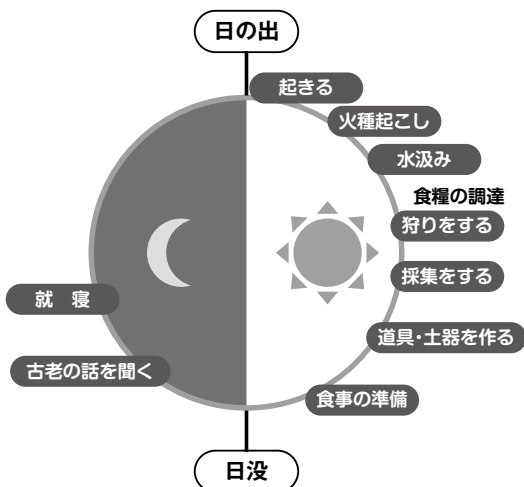


図3 縄文人の1日

次に縄文人の暮らしの1日を見てみよう。1日のスケジュールは図3の如くである。

そして縄文の草創期の頃は、まだかなり家族ごとの移動による狩猟生活も見られたが、中期の頃から、村へと。そのように定住生活が可能となつたので集落を構成し、お互いに協力して生活していった。

実際の狩猟採集の労働時間は、約4時間と推定されており、1日の多くは食事や、狩猟、採集の道具作りや、保存用、調理用の土器の製作の為に費やされた。しかし日没後に古老の話を聞く等の余裕があり、生活の中心の知恵と体験とが語り伝えられたのである。おそらく民話の基盤が徐々に出来上がつていったのであろうかと推察出来るのである。それらが太安万侶が『古事記』を稗田阿礼の誦を元に書き上げる時まで、弥生時代を経て語り継がれ、その内容も豊富になっていったのであろう。

### (5) 縄文人の1日の暮らしの 拡がり

〜1日4時間の労働説〜

する土器のうち、こうした保存用のものと、世界の4大文明では見られない煮炊き用の土器も縄文時代には作られた。ドングリやトチの実等はあく抜きが必要で、加熱用の調理器具としての土器と共に縄文の2大発明と語られるのが、「弓矢」であり、石斧の狩猟よりもはるかに効果的、効率的に動物を捕らえる事が出来るようになった。

実際の狩猟採集の労働時間は、約4時間と推定されており、1日の多くは食事や、狩猟、採集の道具作りや、保存用、調理用の土器の製作の為に費やされた。しかし日没後に古老の話を聞く等の余裕があり、生活の中心の知恵と体験とが語り伝えられたのである。おそらく民話の基盤が徐々に出来上がつていったのであろうかと推察出来るのである。それらが太安万侶が『古事記』を稗田阿礼の誦を元に書き上げる時まで、弥生時代を経て語り継がれ、その内容も豊富になっていったのであろう。

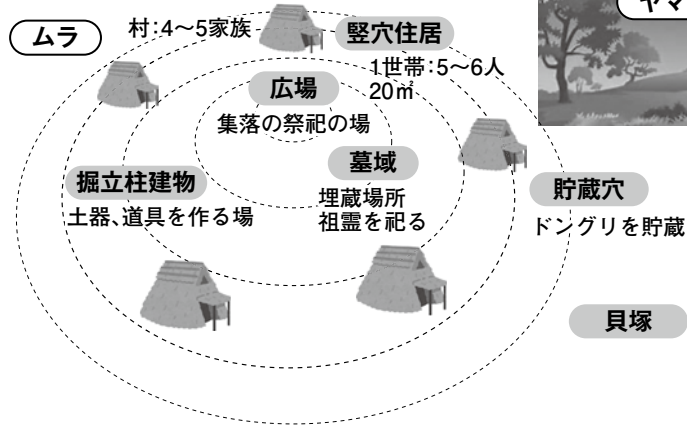


図4 ムラ、ハラ、ヤマ、ソラ

## (6) 縄文時代の交通と交流とコミュニケーション

縄文時代の他の地域や人々との交流とそのコミュニケーションに関しては、1万年以上の時間とその間の

帯の縄文人達が甲信地方に、富士山を頼りに向かったことと示されている。彼らは全て徒歩である。丸木舟が発達してくると、日本海や東シナ海の対馬等々まで出かけて交流していたとも指摘されている。おそらく海流に乗って、対岸から来た

「縄文海進」や富士山の噴火や各地の大地震等の災害によって、あるいは黒曜石等の需要により、縄文人は日本と日本近海

人々との交流から、対岸の国々の存在を知り、興味を掻き立てられたのであろう。

注目すべきは、日本人の祖先の一部は、元々舟を使ってアフリカからアジア大陸の海岸沿いに移動して来た。好奇心と探求心と冒険心を持った勇気のある人々であった。それ故に、逆にアジアの一部の地域に海を使って動くことは、それ程意識的障害は高くなかったのではなからうかという説もある。

但し、羅針盤もなく、まだ天



- 関東、東北、鹿児島、鳥取、島根は縄文人由来が無い
- 関西、四国は、渡来人が多い

図5

文航法も発達していない状況で、どのように荒波を渡って行ったのかの航海は、かなり謎のままである。

縄文時代は言葉あっても文字は開発されなかった。それ故に同世代間のコミュニケーションは出来ても、世代間の知識、経験の受け渡しは極めてゆったりであったと考えられる。我々の今日のスピードでは考えられない程のスピードでの知識や経験の伝播であったものと推測される。

陸、海と違い空を利用しての移動は考えられないが、既に火を用いていたので、のろし等の形で利用可能であったと言えるだろう。

しかし徳川時代のように燈し台があり、米相場で浅草、蔵前と泉州、境との間で用いた等の具体的な話しはまだ判っていない。ただ、人間の空想の中で天とのコミュニケーションは、既になされていて、他で述べるが縄文人なりの世界観、宇宙観を既に身につけていたようだ。

**(7) 母系(権)制社会と父系(権)制社会**

人類の多くの昔の社会において、殆どが母系制社会(Matriilinear Society)で始まり、父系制社会(Patriilinear Society)の社会へ移行するのが常であったが、縄文時代においても、同じく最初母系(権)制社会からスタートした。元々サル社会は乱婚社会であり、子供の父親は判らず、母親しか判らない。それ故、サル社会はメス猿が組織を継続していく。オス猿はいるが、実質的にメス猿に認められたオス猿がボスの座を守るので、母系制社会と言えるだろう。

それと同じく、類人猿を祖先に持つ人類も何となく、その流れにあったようだ。実際縄文時代の政治的権力は、巫女やシャーマン(呪術師)が握っていたが、そのシャーマンに女性が多くいた事が判っている。女性多数社会とも呼ぶ人もいる。それは縄文時代において、一夫多妻であったとの説にも関係している。しかし縄文時代のポイントは、男女間における社会的優劣は無く、平等に見ていた事であろう。それは今日の時代に適応するスタイルであった。

その背景には縄文時代は、狩猟は男性、採集は女性の役割分担があり、お互いに役割を担っていた事も控えていたようだ。しかし、生活の中心は女性であり、祖母-母-子供(娘)のラインが確立していたので、母系社会と言えるのだ。

**母権制社会…女性が社会において重要な地位を持ち、家族内の権威や政治権力を握っている社会(家母社会)**

母権制社会とは、次の内容を持つ。祖母-母-娘のように女性の血縁関係によって社会集団を作る社会

- ① 子供が母方の姓を名乗る(母姓継承)
- ② 娘達が母方の位階を継承(母性位階継承)
- ③ 娘達が母方の遺産を相続する(母系相続)
- ④ 結婚後も夫婦は別居、もしくは妻(母)方の共同体に居住(母(妻)方居住制)

また縄文社会では子供は、集落全体(村)で育てていた。まさに女性

と子供と生命をコミュニケーション全体で尊重し大切にしていたのである。何とも今日の動きと符合することか？

実際に家族構成がどうなっていたのかに関しては、親子のみなのか、大家族制で、祖母-母-子供が一緒に住んでいたと考えるのか判断が分かれている。しかし世界的な狩猟、採集民族の研究からは核家族しているケースが多いと報告されている。

また恋愛に関しても、自由恋愛は少なく、ある程度生まれた時から、誰と結婚するかは決まっていたとされる。確かに、20〜30人の村の時には、かなり近親結婚が多かったのであるが、次第に村同志の交流が盛んになり、祭りがより大きな規模でやられるようになると一部は、自由恋愛になっていったとの指摘もある。

いずれにしても、この辺りの事情はまだ厳密に定められている訳ではなく、これからの研究を待つ事が大事である。しかし少なくともこうした面でも、余り争いの少ない時代と社会であった事は間違いないのであった。

(次号へ続く)